

レジメン名

nal-IRI+5-FU/LV

出典 オニバイド適正使用ガイド 2020年6月作成

実施部署区分

入院
 外来
 処置

対象疾患

肺癌

 進行・再発 (GEM既治療の二次治療以降)

 補助療法

投与減量の基準

ANC	1000/mm ³ 未満 ^{※1}	PLT	5万/mm ³ 未満 ^{※1}
WBC	2000/mm ³ 未満 ^{※1}		
その他	発熱性好中球減少症 ^{※1} G3以上の下痢・その他の副作用 (無力症及び食欲減退を除く) ^{※1} G3以上の悪心・嘔吐 (適切な制吐療法にもかかわらず発現) ^{※2} ※1:オニバイド・5-FUを1段階減量 (詳細は添付文書を参照) ※2:オニバイドを1段階減量 (詳細は添付文書を参照)		

投与中止の基準

ANC	1500/mm ³ 未満	PLT	10万/mm ³ 未満
T-bil	1.2mg/dL以上	CLcr	30mL/min未満
AST(GOT)	100IU/L以上	ALT(GPT)	120IU/L以上
肝転移がある場合はAST200IU/L・ALT225IU/L以上			
その他	発熱性好中球減少症 G2以上の下痢・その他の副作用 その他イリノテカン・5-FUの禁忌事項		

総コース数

1コース期間 14日

PDまで

(次のコースまでの標準期間)

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度 (時間)	投与日(d1, d8等)
オニバイド(リボソーム型イリノテカン)	70mg/m ² [※]	輸液500mL	90分	day 1
※UGT1A1 * 6若しくはUGT1A1 * 28のホモ接合体、又はダブルヘテロ接合体を有する患者へ投与する場合 開始用量50mg/m ² (忍容性が良好な場合は2コース目以降の投与を70mg/m ² とすることを考慮)				
レボホリナート	200mg/m ²	5%TZ250mL	2時間	day 1
5-FU(フルオロウラシル)	2400mg/m ²	輸液適量	46時間	day 1

1日投与順 (経時的にプレ Medikation・ポスト Medikation、 溶解液まで含む)
①生食20mL(CVポートより ルート確認用)
②アロキシバック(0.75mg)+デキサート9.9mg (15分)
②'生食50mL(ルート確保用)
③オニバイド70mg/m ² [※] +輸液500mL インラインフィルターを使用しないこと (90分)
④生食50mL(フラッシュ用)
⑤レボホリナート200mg/m ² +5%糖液250mL (2時間)
⑥生食50mL(フラッシュ用)
⑦5-FU2400mg/m ² +生食α mL 計100mL (インフューザーポンプ使用にて46時間で投与)
<内服> day1から4日間 ウルソデオキシコール酸(100)3錠3× 毎食後 炭酸水素ナトリウム 1.8g3× 毎食後 (遅発性下痢の予防目的)
day2及び3(day4も可) デカドロン(4mg)2錠 内服 必要に応じて、アプレピタント併用